

『捷解新語』に見られる「やう[様]」の 用法と対訳について*

趙燭熙**
ghcho@pusan.ac.kr

〈目次〉

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. はじめに | 2.2.2 「如何様」「斯様」「斯様に」「斯様な
」「斯様なる」「然様に」の用法と
対訳語 |
| 2. 「やう(様)」の用法と対訳語 | 2.2.3 「仰様」「仕舞様」「為様」「取様」
「成され様」「申し様」の用法と
対訳語 |
| 2.1 「やう(様)」の実態 | |
| 2.2 「やう(様)」の用法と対訳語 | |
| 2.2.1 「様」「様に」「様な」の用法と対
訳語 | |
| 3. 結論 | |

主題語: ヤウ(YO-U), ヤウニ(YO-U-NI), 形式名詞(Dependent Nouns), 翻訳(Translations), 対訳語選択(Target word selection), ヤウの用法(The usage of YO-U), 捷解新語(Cheophaesinco)

1. はじめに

朝鮮時代の日本語教育は、中央官廳である司譯院の「倭學」で養家子弟を対象に勉強させ、日本との外交、貿易の任に当たらせるために始まった。司譯院の日本語の教科書は、『世宗實錄』『經國大典』によると『伊路波』など十四種類¹⁾を課したと記されている。これらは『捷解新語』(1676)が用いられるまで使われた。その後、兩國語の変化により、日本語の譯官による改訂が行われ、『改修捷解新語』(1748)が成立し、さらに、『重刊改修捷解新語』(1781)が成立した。

『捷解新語』には、「やう(様)」が数多く使われている。『大辞林 第三版』(2006)によると、「よ

* 本論文は、「釜山大学校自由課題学術研究費(2年)」によって研究されたものである。

** 釜山大学 日語日文学科 教授

1) 『伊路波』『消息』『書格』『老乞大』『童子教』『雜語』『本草』『議論』『通信』『鳩養物語』『庭訓往來』『応永記』『雜筆』『富士』である。

う[ヤウ]【様】は、①ありさま。様子。すがた。②決まったかたち。様式。③やり方。方法。④事情。理由。わけ。⑤同様。同類。⑥(形式名詞的に用いて)㉠発言や思考の内容。こと。㉡発言や思考の引用を導く言葉。…こと(には)。⑦動詞の連用形の下に付いて、複合語をつくる。㉢ありさま、様子などの意を表す。㉣しかた、方法などの意を表す。⑧名詞の下に付いて、複合語をつくる。㉤様式、型などの意を表す。㉥そういう形をしている、それに似ているなどの意を表す。」のように記されている。『捷解新語』に用いられている「やう(様)」は、場合によって、名詞、助動詞、形式名詞として使われているようである。

特に注目されるのは、この「やう(様)」の対訳語に「양、-口、테、ㅌ시、티、즉이、대로、시、하야、又하야、아무리、이대도록」など30種類が用いられていることである。

本稿では、『捷解新語』における「やう(様)」を調査し、「やう(様)」がどのように使われているのか、その実態と多様な対訳語が使われている背景について探ってみたい。

2. 「やう(様)」の用法と対訳語

2.1 「やう(様)」の実態

『捷解新語』用いられている「やう(様)」は、「様、様に、様な、如何様、仰様、斯様、斯様に、斯様な、斯様なる、然様に、仕舞様、為様、取様、成され様、申し様」の形で現れる。その実態を示してみると、次の<表1>の通りである。<表1>は形と対訳語が異なる場合のみ示したものである。

<表 1> 『捷解新語』に見られる「やう(様)」の実態と対訳語

出現数 ²⁾	出現	対訳語	用例	
様(8)	やう 三5a	양	申すよう	술올양
	やう 四11a	-口	おしらるようかな	나르심이야
	やう 八18a	테	御れいのようにも	인스홀테도

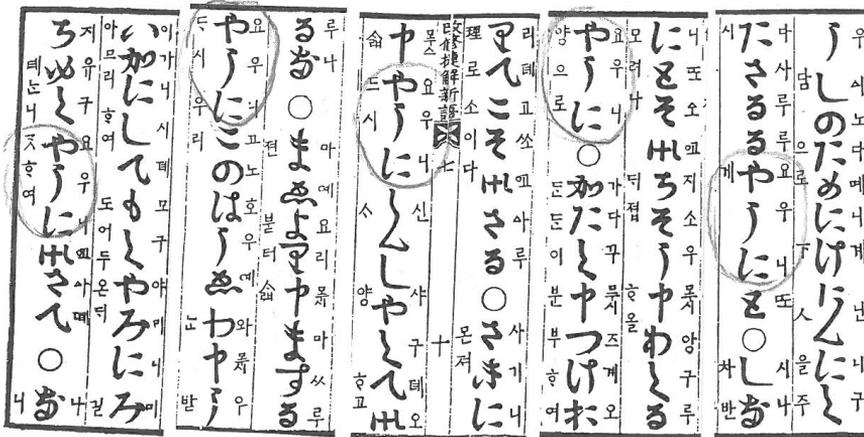
2) 括弧内の数字は『捷解新語』に現れる総数である。

出現数 ²⁾	出現	対訳語	用例	
様に(110)	やうに 二4b	드시	このように	이러드시
	やうに 二7b	티	このように	이러티
	やうに 二8a	죽이	くうやうに	머검죽이
	やうに 三3b	듯	したいこなおるやうに	점점하리는듯
	やうに三16a	로	うなしやうに	흥가지로
	やうに三17a	양으로	しいるやうに	권흥양으로
	やうに三21a	리	このように	이리
	やうに三21b	게	もとるやうに	도라가게
	やうに三26b	드시	おしらるやうに	니르시드시
	やうに三29a	케	あらそわんやうに	드토디아니케
	やうに四12b	턱로	みきのやうに	알가턱로
	やうに六15b	심을	御さるやうに	오읍심을
	やうに六22a	대로	おしらるやうに	니르신대로
	やうに七7a	시	さきに申やうに	몬져숯드시
	やうに七18b	하야	ともつかまつるやうに	모시게하락하야
	やうに九18a	又하여	おすすむやうに	네느니긔하여
	やうに九18a	듯하여	あとえしさるやうに	뒤호로므느는듯하여
	やうに十8b	様	しかるへきやうに	可燃様
やう(様)な (9)	やうな一32a	런	このやうな	이런
	やうな三8b	테윗	ゆくしきのやうに	肉食테윗
	やうな四23a	듯	あとゑもとるやうな	뒤호로가는듯
	やうな六19a	듯흥	このやうな	이러듯흥
	やうな七10b	-ㄴ	たすやうな	내느
	やうな八28b	런	このやうな	이런
	やうな九17a	마특신	おのおのやうな	자네네 마특신
如何様(3)	いかやうに四22a	아무리라	いかやうにも	아무리라도
	いかやうに九7a	아무리	いかやうにして	아무리하여
	いかやうに十27a	如何様	いかやうになりとも	如何様成共
仰様(1)	おしらりやう八20a	양	おしらりやう	니르신양

出現数 ²⁾	出現	対訳語	用例	
斯様(2)	かやう五25a	이대도록	かやう	이대도록
	かやう七2a	이러듯	かやう	이러듯
斯様に(5)	かやうに三1b	이리	かやうに	이리
	かやうに八7b	이러드시	かやうに	이러드시
斯様な(1)	かやうな四2b	이러드시	かやうな	이러드시
斯様なる(1)	かやうなる九11b	이러듯흔	かやうなるわらい	이러듯흔우음
然様に(7)	さやうに九2b	그리	さやうに	그리
	さやうに十13a	左様	さやうに	左様
仕舞様(1)	しまいやう七7b	테	しまいやうも	홀테도
為様(2)	しやう四18a	테	しやうかなさ	홀테업스오니
	しやう八10a	양	しやうも	홀양도
取様(2)	とりやう三6a	양	とりやうお	잡는양을
	とりやう十15a	様	とりやうに	取様
為され様(1)	なされやう七3b	양이	인스킨나され야우	懇勸히스신양이
申しやう(3)	もうしやう七9b	~口	신스스申야우わ	信使의술오른
	もうしやう八26b	양	申야우も	술을양도
	もうしやう十17a	様	申야우御さなく候	申様無御座候

<表 1>に示した通り、「様」8例、「様に」110例、「様な」9例、「如何様」3例、「斯様」2例、「斯様に」5例、「斯様な」1例、「斯様なる」1例、「然様に」7例、「仰様」1例、「仕舞様」1例、「為様」2例、「取様」2例、「成され様」1例、「申し様」3例であり、ほとんどが「様に」の形である。

一方、これらの「やう(様)」に用いられている対訳語は、「양、-口、테、드시、티、즉이、듯、로、양으로、리、게、드시、케、터로、심을、대로、시、히야、및히여、듯하여、런、테잇、듯、듯、-니、런、마트신、아무리라、아무리、이대도록」の30種類である。この30種類の対訳語は、次の<図 1>の『改修捷解新語』の通り、「やう(様)」に該当する語の左側に対訳の形式で示しているので、容易に確認することができる。対訳語別に一部の用例をあげてみる。



<図1> 『改修捷解新語』の対訳

2.2 「やう(様)」の用法と対訳語

現代語の「やう(様)」は、名詞形の場合は漢字で「様」と書くのが一般的であり、助動詞や接尾語の場合は仮名の「よう」と書くが、『捷解新語』は、本文全体が平仮名文なので区別されていない。本稿では、便宜上「様、様に、様な」、複合語「如何様、斯様、斯様に、斯様な、斯様なる、然様に」、動詞の連用形に接続する「仰様、仕舞様、為様、取様、成され様、申し様」に分けて全ての用例を挙げてみる。

2.2.1 「様」「様に」「様な」の用法と対訳語

まず、「やう(様)」は、8例現れる。その対訳は、「양」「-로」「테」の3種類が見られる。その例を挙げてみる。

- (1) あまりこねんころにあしらわしつれて 申やうも御さらん <原三5a>
하극진히 덕접키옵시니 슬울양도 업서이다
- (2) さてさてあきれたおしらるやうかな <原四11a>
어와어와 어히업시 니르십이야
- (3) へちに御れいのやうもないほとに <原八18a>
별로 인스홀 테도 업스니

日本語の「やう(様)」は、動詞の連体形の下に付くか、助詞「の」をはさんで接続する名詞であり、「事情理由わけ」の意味である。反面、韓国語の対訳語の場合は、例(1)「양」と例(3)「태³⁾」は、形式名詞として「理由やわけ」の意味を示しているが、例(2)「니르시다」の名詞形である「니르심」が対訳語として用いられている。

「やう(様に)」は110例現れる。「名詞「よう(様)」に断定の助動詞「だ」が付いた形で、比況の助動詞である。『捷解新語』の「やうに」は、「れる・られる」「た」「ない」「ぬ」「たい」などの連体形に付くほか、体言と一部の副詞には助詞「の」をはさんで接続する。また、連体詞「この・その・あの・どの」などにも付く。対訳語が異なる用例を全て挙げてみる。

- (4) けうわこのやうにあしらわしらるお <原二4b>
오늘은 이러트시 디접히시물
- (5) まゑにわけしきものかこのやうに御さなかに <原二7b>
전의는 격기엿 거시 이러타⁴⁾ 못히옵더니
- (6) くうやうにこしらいたほとにうれし御さる <原二8a>
머검죽이⁵⁾ 장만히엿스오니 깃거히옵느이다
- (7) したいになおるやうに御されとも <原三3b>
점점 흐리느⁶⁾ 닷 흐옵전마는
- (8) さけおうなしやうにこしめせとも <原三16a>
술을 혼가지로 자선마는
- (9) ていしゆふりおたしなうてしいるやうにきまるしたほとに <原三17a>
主人의 도리를 출혀 권할양으로 왓스오니
- (10) このやうにかたしけなき御いちやほとに <原三21a>
이리 감격히 御意] 시니
- (11) いちにちも いそいてもとるやうにさしられ <原三21b>
흘리라도 수이 도라가게 흐쇼셔
- (12) おしらるやうに けうわひよりもよし <原三26b>
니르시드시 오늘은 날도 도쿄
- (13) あらそわんやうに御さいかくさしられ <原三29a>
드토디 아니케⁷⁾ 직간히옵소

3) 形式名詞、「양(様)」（推量、推察、心当、見当）の古語である。

4) 「이러하다」の縮約語である。

5) 「먹음직스럽게（副詞）」である。

6) 「흐리다」は「났다. 덜하다」の古語である。

7) 「아니하게」の縮約語である。

- (14) さたかもつはらのとき みきのやうにおしやて <原四12b>
공스 오로 흘 제 알가터로⁸⁾ 니르시고
- (15) たたいま御さふねおめさしられて 御さるやうにたのみまるする <原六15b>
이제 座船을 트시고 오읍십을 밋즘⁹⁾이다⁹⁾
- (16) またちうくわんいけあけんことお おしらるやうにことわりまるすれとも <原六22a>
또 中官以下 울리디말 일을 니르신대로 스설¹⁰⁾혀도
- (17) さきに申やうにしんしやくてとらんでわなし <原七7a>
몬져 畚¹¹⁾드시 스양¹¹⁾고 밧디아니미아니라
- (18) のこらす御ともつかまつるやうにとおしらるほとに <原七18b>
깃티¹⁰⁾니 업기 모시게¹⁰⁾라 ㅎ야 니르시오니
- (19) いかにしてもくらやみにみちおすすむやうに <原九18a>
아프리 ㅎ여도 어두온 디 길 네¹¹⁾니 ㄹ¹¹⁾혀
- (20) ならうほどあとゑしさるやうに御さる <原九18a>
니기도록¹²⁾ 뒤호로 므느¹³⁾ ㄹ¹³⁾하¹³⁾여
- (21) とねきふさんかいも しかるへきやうに おうせあけられ候て <原十8b>
東萊釜山浦에도 可然樣 被仰上候而 (부산동래포에도 豆홀대로 슬와)

以上、「やう(様)に」の場合、連体形に付くものが12例、助詞「の」をはさんで接続するものが1例、連体詞「この」に付くものが3例、連体修飾語に付くものが2例である。いずれも対訳語と接続の形態とは関連がない。日本語「やう(様)に」は、連体詞「この」に付く3例うち、例(5)のように否定表現は「이러티」であり、肯定表現は「이러트시(이리)」が用いられている。

一方、連体形に付く例(6)、例(7)など12例は、例(20)が不確かな断定の意味なので「ㄹ¹³⁾하¹³⁾여」が用いられ、例(7)例(12)などは断定を避けて、遠まわしに判断を述べるころなので「ㄹ¹³⁾」が対訳語として使われている。また、例(6)はその性質・状態を述べているので「즉이」が使われている。

「…ように」の形で文末に用い、願いや希望、依頼や軽い命令などの意味を表している場

8) 「-터」は助詞である。

9) 「믿다, 원하다, 바라다」などの意味であるが、ここでは日本語が「たのむ」であることから「바라다」の意味で使われている。

10) 「깃¹⁰⁾다」は現代語「남다」である。

11) 「네¹¹⁾다」は現代語「가다, 행하다」である。

12) 「니¹²⁾기¹²⁾다」は現代語「익히다」である。

13) 「므¹³⁾느¹³⁾다」は現代語「물리나다」である。

合は、例(19)のように「마키여」が用いられている。

最も多く見られる行動の基準や目標・目的などを表している例(9)・例(11)・例(13)・例(15)などは「양(様)으로」「계」などの対訳語が使われている。韓国語の対訳語は、日本語の「やう(様)」に対する「양(様)으로」のような逐語訳はあまり見られず、その文の内容に相応しい多様な対訳語が選択されていることが分かる。「やう(様)な」は、助動詞「ようだ」の連体形で9例現れる。その例を挙げてみる。

- (22) このやうなたうりおとねきゑ申て <原一32a>
이런 道理를 東萊위 엇즈와
- (23) このやうなしやへつも申さんやうに申かめいわくちやほとに <原六19a>
이러듯흔 差別도 畚디 아니흔는 양으로 니르미 민망호오니
- (24) このやうなせつたいにあうて かいしやうのうれいおものはし <原八28b>
이런 接待의 만나 海上의 시름도 僻매
- (25) おのおのやうなしゆころくにんも御されかなと <原九17a>
자네네 마트신 분 五六人만 계시과다
- (26) ゆくしきのやうなものおくいまるせんほとに <原三8b>
肉食테잇¹⁴⁾ 거슬 먹디 아니호오니
- (27) 申ても申てもあとゑもとるやうな御ころもち <原四23a>
니르도록 니르도록 뒤호로 가는 듯흔 ㅁㅡㅁ 가지미
- (28) さかつきもたすやうなことあてよかるうやら <原七10b>
잔어나 내닐 일이나 이셔야 도호르디

「やう(様)な」は、連体詞「この」に付くものが3例、助詞「の」をはさんで接続するものが2例、連体形に付くものが2例である。連体詞「この」に付くものが3例は「이런(런)」が基本的な対訳であるが、例(23)のように不確かな断定の意味を表している場合は「이러듯흔」が使われている。

名詞に助詞「の」をはさんで接続する場合は、「같은」「따위(테)」が用いられている。連体形に付くものが例(27)と例(28)は、「듯한」「-ㄴ」のように推量、推察、推測を表す「듯하다」の連体形が使われている。

14) 「테잇」の「테」は推測、「따위」の古語である。「-잇」は處格助詞「의」に屬格助詞「-ㅁ」が付いた複合各助詞である。

2.2.2 「如何様」「斯様」「斯様に」「斯様な」「斯様なる」「然様に」の用法と対訳語

「やう(様)」が語構成において、2つ以上の形態素を組み合わせて複合語として現れるものには、「いかやう(如何様、3例)、かやう(斯様、2例)、かやう(斯様に)、5例)、かやう(斯様な、1例)、かやう(斯様なる、1例、さやう(然様に)、7例)」がある。その例を挙げてみる。

- (29) こなたのくときおきけは いかやうにもしたいけれとも <原四22a>
 자녀의 여러 말을 듣건대 아무리라도 히고져 히건마는
- (30) ていしゆふりのさけおのみすくし いかやうにしてもとらしられたも <原九7a>
 亭主의 도리의 술을 디내¹⁵⁾ 먹고 아무리 히여 도라가심도
- (31) 御むつかしうことに御さ候わ いかやうになりとも <十27a>
 御六箇敷事御座候者(어려울작시면) 如何様成共(아무리 힐지라도)

上記の例(29)は、形容動詞の「どんなふう、どのよう」の意味なので、対訳語に「아무리라도」が使われている。また、例(30)・例(31)は副詞のかかなりの確信を抱きながら推測する場合に当たり、対訳語は韓国語の副詞(程度が著しい様)の「아무리(아무리)」が使われている。

「かやう(斯様)」は、例(32)、例(33)のように「こうよう(かうやう)」(かくやうの転)の複合語であり、「このよう、こういう」の意味で使われている。対訳語も「이대도록、이러듯(이렇+듯이)」が付けられている。

- (32) なにしにちよさいつかまつりまるするか かやうきつおしられんても <原五25a>
 엇디 열현이 히렇잇가 이대도록 세치아니 니르시다
- (33) ましてかやうのところいかにもうけられんやうすちやほとに <原七2a>
히를며 이러듯한 배 아쁘려도 밧디 못힐 일이오니

「かやうに(斯様に)」は、例(34)のように5例が現れ、対訳語は「이리」が用いられているが、例(35)は「かやう(斯様)」の対訳と同じ「이러트시(이렇+듯이)」が付けられている。対訳語の「이러트시」は、例(36)と例(37)の「かやうな(斯様な)」「かやうなる(斯様なる)」の対訳語としても用いられている。

15) 現代語「지나치게」の意味である。

- (34) わたくしかさきに申まるせうお かやうに御いなさるほとに <原三1b>
 쇼인이 몬져 슬을 써슬 이리 御意 히시니
- (35) またわれらちからてあのつかいおしゆうにさはかれんこそちやほとに かやうにこそ
 申まるする <原八7b>
 쏘 내 힘으로 더 使를 自由히 마음 아디 못홀 일이오니 이러트시
 엇줍농이다
- (36) こうむゑきとさたまるならば かやうないていりあるそむないに <原四2b>
 公貿易이라 덩히여시면 이러트시 出入이 잇디 아닐 듯흔디
- (37) くわんちうもことさひしに かやうなるわらいたねお申さすは <原九11b>
 館中도 심심히매 이러트호 우음 바탕을 니르디 아니면

「さやうに(然様に)」は7例見られるが、いずれも形容動詞「然様だ」の連用形の形である。対訳語は、巻十では漢字表記の「左様」が、それ以外では「그리」が用いられている。

- (38) あすよりわれらかしまるせうほとに おのおのもさやうにこころゑさしられ <原九2b>
 닉일브터 우리 히을 써시니 자네네도 그리 아읍소
- (39) あいさため申候あいた さやうに 御こころゑなされ候て <原十13a>
 相定申候間 左相 御心得被成候而 (정히여스오니 그리 아읍시고)

2.2.3 「仰様」「仕舞様」「為様」「取様」「成され様」「申し様」の用法と対訳語

「やう(様)」が動詞の連用形に接続し、形式名詞の用法として使われているものには、「仰様」「仕舞様」「為様」「取様」「成され様」「申し様」がある。これらの形式名詞として使われている語と対訳語について挙げてみる。

「おしりやう(仰様)」は、例(40)のように「おしらる(仰せられる)」の連用形に「やう(様)」が接続する形で、主格に立ち、連体限定を受ける。対訳語は「니르신양(니르시다+양)」に付けられているので、日本語と同じ語構成である。

- (40) いろいろ御いんきんなおしりやう ことにふきやうしゆよりまいたものお <原八20a>
 色色 御慰懃히 니르신양 즈뭇 奉行위로서 온 거슬

「しまいやう(仕舞様)」は、「しまう(仕舞う)」の連用形に「やう(様)」が後続する形で1例が現

れる。この例(41)の「しまいやう(仕舞様)」は主格に立ち、否定表現として使われている。この場合、対訳語は「홀테」が用いられている。

- (41) しんしやくてとらんでわなし うけとてしまいやうもないほどに <原七7b>
 사양하고 맞디 아니미 아니라 바다셔 홀테도 업스니

「しやう(為様)」は、「する(為る)の連用形に「やう(様)」が接続する形で、2例が現れる。次の例(42)は、主格に立ち、否定表現として使われている。この場合、対訳語は例(41)と同じ「홀테」が用いられている。一方、例(43)のような連体限定の場合は、「홀양」が対訳語として使われている。

- (42) このこうもくおうけとて なにともしやうかなさに たいくわんとももいろいろに
 おもゑとも <原四18a>

이 公木을 바다 아프려도 홀테 업스오니 代官들도 가지가지
 생각하건마는

- (43) ふるまいのしやうも御さるけなほどに <原八10a>
 振舞 홀양도 잇는가 시브오니

「とりやう(取様)」は、「取る」の連用形に「やう(様)」が接続する形で、2例が現れる。次の例(44)と例(45)は、修飾格に立ち、連用限定を受ける用法である。対訳語は、例(44)は「잡는 양(모양)」のように「様」が名詞として用いられている。例(45)は「取様」が付けられているが、『改修捷解新語』の韓国語対訳には「마드려 하여」(取るようにして)が使われている。この場合も漢文対訳は「取様」である。

- (44) しいにくう御されとも さかつきとりやうおみれは <原三6a>

권키 어렵습 것마는 잔 잡는 양을 보오니

- (45) とねき御くたらんさき まつ ふうしんものとりやうに <原十15a>

東萊御不下前 先 封進物取様(東萊^{ᄇᆞ}려오신전의封進物을마드려하여)

「なされやう(為され様)」は、例(46)のように「為される」の連用形に「やう(様)」が接続する形で、「様」が形式名詞として使われている。対訳語も形式名詞として、ある行動を予想する意味として「하신 양」が使われている。

- (46) さてさてかすかすのちんみ かれこれ御いんきんななされやう 御いりにあまる
 やうすてこそ御され <原七3b>
 어와 어와 여러 가지 珍味 이걸 더걸 懇懇히 ㅎ신양이 御禮에 너문
 양이로 소이다

「もうしやう(申し様)」は、「申す」の連用形に「やう(様)」が接続する形で3例が現れる。次の例(47)、例(48)、例(49)は、修飾格に立ち、連用限定を受ける。また、例(48)、例(49)は否定表現であるが、用法には差がない。対訳語は、例(47)は助詞「ワ」を含んで「슬오문」がつけられ、発言内容をことさら表していることが訳されている。例(48)、例(49)ともに「슬올양」が用いられ、発言や思考の内容を表していることが分かる。

- (47) たいしゆとしよちやうろうかみまいにてしんすゑ申やうわゑとよりしんすの <原七9b>
 島主과諸長老뵈오며서 信使뵈슬오문 江戸로셔信使뵈
 (48) こんにちにおいてわ御のこりおおさ 申やうも御さらんほとに <原八26b>
 그러커니와 오늘에다드라느섭섭히 읍기 슬올양도업스오니
 (49) しひよきあいすみ めてたくそんすること 申やう御さなく候 <原十17a>
 首尾能相濟 目出度存事 申様無御座候
 (수이 ㄷ히 ㄴ즈오니 읍답스와 슬올양이 업서이다)

3. 結論

『捷解新語』の「やう(様)」は、「様、様に、様な、如何様、仰様、斯様、仕舞様、為様、申し様」などの形が見られる。その意味は「ありさま、様子、方法、事情、理由、同様」として使われている。特に注目されるのは、これらに付けられている対訳語が「양、-口、예、ㅅ시、티、즉이、대로、시、ㅎ야、ㄴㅎ여、아무리、이대도록」など、30種類あることである。本稿では、「やう(様)」の実態と対訳語を調査し、「やう(様)」の用法と多様な対訳語が使われている背景について探ってみた。その結果、次のようなことが明らかになった。

『捷解新語』に見られる「やう(様)」は、「やう(様)に」の形が最も多く(110例)、「れる・られる」「た」「ない」「ぬ」「たい」などの連体形に付くほか、体言と一部の副詞には助詞「の」をはさんで接続したり、連体詞「この・その」などにも付く。また、「やう(様)」が動詞の連用形に

接し、形式名詞の用法として使われているものもある。

対訳語は、「양、-口、타、ㅁ시、타、」など、30種類が使われているが、用法による使い分けは見られない。ただ、連体詞「この」に付く場合、否定表現は「이러티」、肯定表現は「이러ㅁ시(이리)」が用いられ、連体形に付く場合、不確かな断定の意味には「듯하여」、遠まわりの判断には「ㅁ」が対訳語として使われている。また、性質・状態には「즉이」、「…ように」の形で文末に用いて、願いや希望、依頼や軽い命令などの意味を表している場合には「마키여」、行動の基準や目標目的には「양으로」「계」などの対訳語が使われている。日本語の「やう(様)に」に対する「양(様)으로」のような逐語訳より、その文の内容に相応しい多様な語が選択されていることが明らかになった。

【参考文献】

【影印本】

『捷解新語』(1985)大提閣

『改修捷解新語』(1987)京都大學國文學會

【参考文献】

国立国語研究所編(2004)『分類語彙表増補改訂版』大日本図書

大阪外国語大学朝鮮語研究室編(1986)『朝鮮大辞典』角川書店

日本大辞典刊行會(1976)『日本國語大辞典』小學館

劉昌惇(1987)『李朝語辞典』延世大出版部

李太永(1997)『訳注捷解新語』太学社 pp.29-383

鄭光(1988)『司譯院倭學研究』太学社 pp.15-215

辻星児(1975)「原刊 捷解新語の朝鮮語について」『国語国文』44-2、京都大学文学部国語国文研究室

浜田 敦(1983)『国語史の諸問題』和泉書院 pp.302-347

安田 章(1980)『朝鮮資料と中世國語』笠間書院 pp.24-39

山村祐樹(2013)「形式名詞「よう(だ)」の歴史的変遷—統語構造の観点から—」京都教育大学国文学会誌39

吉川武時(2003)『形式名詞がこれでわかる』ひつじ書房, pp.12-116

논문투고일 : 2014년 12월 10일
심사개시일 : 2014년 12월 20일
1차 수정일 : 2015년 01월 08일
2차 수정일 : 2015년 01월 14일
게재확정일 : 2015년 01월 19일

 <要旨>

『捷解新語』に見られる「やう(様)」の用法と対訳について

『捷解新語』には「様、様に、様な、如何様、仰様、斯様、仕舞様、為様、申し様」などが見られるが、その対訳語は「양、-로、예、ㅈ시、티、즉이、대로、시、하야、ㅈ하야、아쁘리、이대도록」など、30種類が使われている。本稿では、「やう(様)」の実態と対訳語を調査し、「やう(様)」の用法と多様な対訳語が使われている背景について考察を行った。その結果、「やう(様)に」の形が最も多く見られ(110例)、「れるられる」「た」「ない」「ぬ」「たい」などの連体形に付くほか、体言と一部の副詞には助詞「の」をはさんで接続したり、連体詞「このその」などの形も見られる。また、動詞の連用形に接続し、形式名詞の用法として使われている場合もある。

対訳語は、「양、-로、예、ㅈ시、티、」など、30種類が使われているが、用法による使い分けは見られない。ただ、連体詞「この」に付く場合、否定表現は「이러티」、肯定表現は「이러ㅈ시(이리)」が用いられ、連体形に付く場合は、不確かな断定には「ㅈ하야」、遠まわしの判断には「ㅈ」が対訳語として使われている。また、性質状態には「즉이」、「…ように」の形で文末に用いて、願いや希望、依頼や軽い命令には「마하야」、行動の基準や目的には「게」などの対訳語が使われている。日本語の「やう(様)に」に対する「양(様)으로」のような逐語訳より、その文の内容に相応しい多様な語が選択されていることが明らかになった。

Study of the Usage and Translation of 'YOU(야우)」 in “Cheopheasineo”

While words like 'YAU(様)' and 'YAUNI(様こ)' are found in “Cheopheasineo”, there exists more than 30 varieties of translations, which among them include 'yang' '-m' and 'tha-si'.

This study investigates the translations of 'YOU' and how it is actually used, and focuses mainly on the background of the usage and the different translations of 'YOU'.

As a result, it is found that the word shape of 'YAU-NI' is used the most (110 examples). Furthermore, conjunction with RENTAIKEI 'reru' 'ta' 'nu', conjunction with postpositional particle 'NO' on certain adverbs, and forms of RENTAISI 'KONO · SONO' are also diversely used. Also, it is used as a conjunction with RENYOUKEI of a verb or even as a formal noun.

There are more than 30 different translations including 'yang' '-m' and 'tha-si', however, there is not much difference between the usages. However, in the case of conjunction with RENTAISI 'KONO' 'i-reu-thi' is used for negative expressions while 'i-reu-tha-si(i-ri)' is used for positive expressions. If conjunction with RENTAIKEI is followed by an unclear judgment, the expression 'tus-ha-ye' is used and if such is followed by an indirect judgment, the expression 'tas' is used. For the word ending in '…YOUNI' 'kas-ha-ye' is used to indicate signs of hope, while 'ke' is used for determining the criteria of certain actions. As a response to Japanese 'YAU-NI' rather than literally translating the kanji (yang-eu-ro), more appropriate words are chosen according to the context the words are used in.